

変節の数々、 ご都合主義の民主党。



民主党はこれまで主張してきた政策を次々に変節させている。
ようやく、現実的になったとはいえ、国民を欺いたその責任は大きい。

「天下り・渡り」 ⇨ 「天下り・渡り」の禁止は、民主党の看板政策。

しかし、人事官・江利川毅氏の人事は「天下り」そのもの。郵政会社の齊藤次郎社長は「渡り」の典型で、退職金の積算は3億円を超えともいわれています。「現職の官僚のあっせんがなければよい」とする民主党ですが、変節は明白です。

「普天間基地移転」 ⇨ 鳩山総理は、オバマ大統領に「Trust me(私を信じて)」と
言明しながら、来年に先送りでは話になりません。米国の信頼度は急降下です。

「暫定税率」 ⇨ 暫定税率の廃止は民主党の目玉政策のはずでした。“ガソリン値下げ隊”
で“25円安くする”とあれほど叫んでいたのに、財源が欲しくてあっさり撤回のようです。

「後期高齢者医療制度」 ⇨ 即時撤廃の勢いで声高に主張していた後期高齢者医療
制度は、地方の混乱を避けるために廃止を延期すること。対案を示さず廃止だけすれば、
最初から地方の混乱は予想されていたことです。

「予算編成の内閣一元化」 ⇨ 民主党は、予算編成に関しては内閣に一元化すると言
っていました。しかし、今回の小沢幹事長の要望書の提出は、突然、「整備新幹線」の予算が
計上されたり、「土地改良」の予算が半減されたりと、事実上“小沢要望”の押しつけでした。政
府と党の権力の二重構造が明確になりました。